

事 務 連 絡
平成 25 年 8 月 16 日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
専務理事 矢ヶ崎 忠夫

カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症に係る注意喚起について

このことについて、平成 25 年 8 月 12 日付け事務連絡をもって、環境省自然環境局総務課動物愛護管理室から別添のとおり通知があったので、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

このたびの通知は、今般、①米国より主に乳児を含む子どもがカメに触れたことを原因とするサルモネラ症の集団発生が広域的に繰り返し発生している旨の情報提供が世界保健機関（WHO）を通じてあったこと、②カメ等のハ虫類においては、国内外を問わず多くのもの（50～90%）が、サルモネラ属菌を保菌しており、人がこれらの動物との接触を通じてサルモネラに感染すると、胃腸炎症状を起こしたり、まれに菌血症や髄膜炎等の重篤な症状を引き起こすことから、都道府県衛生主管部局宛てに情報提供及び注意喚起に関する協力依頼を行ったので、了知の上、必要に応じて本会会員への周知の協力を依頼されたものです。

本件のお問合わせ先

公益社団法人

日本獣医師会事業担当：笹川

TEL 03-3475-1601



事 務 連 絡
平成25年8月12日

(公財) 日本動物愛護協会
(公社) 日本動物福祉協会
(公社) 日本愛玩動物協会
(公社) 日本獣医師会
一般社団法人全国ペット協会
全日本動物輸入業者協議会
日本鳥獣商組合連合会
(公社) 日本動物園水族館協会
(公社) 日本動物病院福祉協会
(一社) 日本ペット用品工業会
(一社) ペットフード協会

御中

環境省自然環境局総務課
動物愛護管理室

カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症に係る注意喚起について

動物愛護管理行政の推進につきましては、日頃より格段の御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

標記について、厚生労働省健康局結核感染症課より別添のとおり連絡がありましたので、御了知の上、必要に応じて、貴会会員等への周知を行っていただきますようお願いいたします。

担当：小西

電話：03-3581-3351(内線)6655

事 務 連 絡
平成 25 年 8 月 12 日

環境省自然環境局総務課 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症に係る注意喚起について

今般、カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症について、別添のとおり都道府県衛生主管部（局）あて情報提供及び注意喚起に関する協力依頼を行ったので、御了知の上、必要に応じて、関係者への周知を行っていただきますよう、ご協力をお願いします。

写

事務連絡
平成 25 年 8 月 12 日

各 { 都道府県
保健所設置市
特別区 } 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症に係る注意喚起について

今般、米国より、2011 年 5 月以降、主に乳児を含む子どもがカメに触ったことを原因とするサルモネラ症の集団発生が、米国内で広域的に繰り返し発生している旨の情報提供が世界保健機関（WHO）を通じてありました（集団発生の概要は、参考資料 1 のとおり）。

カメ等のハ虫類については、国内外を問わず、多くのもの（50～90%）がサルモネラ属菌を保有しており、人がこれらの動物との接触を通じてサルモネラに感染すると、胃腸炎症状を起こしたり、まれに菌血症や髄膜炎等の重篤な症状を引き起こす場合があることが知られています。

貴職におかれては、従来より、「ミドリガメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症発生事例に係る注意喚起について」（平成 17 年 12 月 22 日付け健感発第 1222002 号）等に基づき、家庭におけるハ虫類の衛生的な取り扱い方や感染予防の方法等、正しい知識の普及や注意喚起に御協力いただいているところですが、サルモネラ症は、特に新生児や乳児、高齢者等、免疫機能の低い人では重症化しやすいことから、引き続き、家庭でカメ等のハ虫類を飼育する者や動物取扱業者等、関係者に対して、本件に関する周知及び注意喚起をよろしくお願いします。

参考資料 1：小ガメを原因とする複数の州にまたがるサルモネラ症の集団発生について
（2013 年 5 月 24 日付け 米国 CDC の公表情報に基づく概要）

参考資料 2：ミドリガメ等のハ虫類の取扱い Q & A

参考資料 3：「動物由来感染症ハンドブック 2013（抄）」

（全文：http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou18/pdf/handbook_2013.pdf）

小ガメを原因とする複数の州にまたがるサルモネラ症の集団発生について
(2013年5月24日付け 米国 CDC の公表情報に基づく概要※)

- 2011年5月から現在までに、計8件の集団発生が報告されている。このうち4件については現在も疫学調査を実施中。
- 一連の集団発生において、原因となっているサルモネラ属菌に感染した患者は、41州から、計391名報告されている。
 - 患者の29%が入院しているが、死亡例は報告されていない。
 - 患者の71%が10歳以下の子どもで、患者の33%が1歳以下の乳児である。
- 疫学調査の結果、カメまたはその環境（飼育している水槽の水など）への暴露が集団発生の原因であったことが示唆されている。
 - 患者の70%が発症前にカメとの接触があったとしている。
 - カメとの接触があった患者の89%が、特に甲羅長が約10cm以下の小ガメとの接触があったと報告されている。
 - 小ガメとの接触があった患者のうち、30%が露店から、13%がペットショップからカメを購入したとしている。

※詳細については、米国 CDC ホームページの原文をご参照ください。

(<http://www.cdc.gov/salmonella/small-turtles-03-12/index.html>)

ミドリガメ等のハ虫類の取扱いQ&A

平成 17 年に発生した、ミドリガメを原因とする小児における重症なサルモネラ症事例を踏まえ、ミドリガメをはじめとするハ虫類の衛生的な取扱いなどに関するQ&Aを作成しました。

ミドリガメなどのハ虫類に触れたあとは必ず十分な手洗いをしましょう。

(平成 17 年 12 月 22 日作成、平成 25 年 8 月 12 日更新)

1. サルモネラ症について

問1 サルモネラ症とはどのような病気ですか？

答 サルモネラを原因菌とする感染症で、通常、サルモネラに汚染された食品を食べることにより胃腸炎症状の食中毒を引き起こします。また、ハ虫類などの動物との接触を通じて感染し発症する場合があります。

問2 ハ虫類を原因とするサルモネラ症は、どのくらい発生していますか？

答 日本においては、ハ虫類が原因と判明したサルモネラ症の事例がほぼ毎年発生しています。カメ類を感染源とするものがほとんどであり、いずれも子ども又は高齢者が感染しています。

また、海外においては、カメ、イグアナ、ヘビを原因として、多数の感染事例が報告されており、胃腸炎症状に限らず、菌血症、敗血症、髄膜炎、これらに伴う死亡事例があります。

我が国におけるハ虫類を感染源とするサルモネラ症の事例

血清型	原因爬虫類	患者の年齢、性別	症状	発生年	発生場所
<i>S. Poona</i>	ケツメリクガメ	7ヶ月男児	急性胃腸炎、敗血症	2006	新潟県
<i>S. Schleissheim</i>	ミドリガメ	6歳男児	下痢、嘔吐、発熱	2005	長崎県
<i>S. Braenderup</i>	ミドリガメ	1歳3ヶ月女児	髄膜炎	2005	千葉県
<i>S. Paratyphi B</i>	ミドリガメ	6歳2ヶ月女児	急性胃腸炎、敗血症	2005	千葉県
<i>S. IV (45:g, z51:-)</i>	イグアナ	生後27日男児	腸炎	2004	千葉県
<i>S. Saintpaul</i>	カメ	2ヶ月男児 3歳女児	胃腸炎 胃腸炎	2004	秋田県
<i>Salmonella</i> (O4)	ミドリガメ	62歳女性	敗血性ショック	2003	宮城県

(東京農工大学 林谷秀樹准教授調べより抜粋。出典：雑誌「小児科」2013年1月号)

問3 ミドリガメなどのハ虫類は、どのくらいサルモネラを持っていますか？

答 国内外の文献によると、カメ等のハ虫類の糞便中のサルモネラを検査したところ、保菌率が50～90%であったと報告されています。

2. サルモネラのハ虫類からヒトへの感染経路や症状、感染した場合の治療について

問4 ヒトへはどのようにして感染しますか？

答 飼育中のハ虫類を触った又は飼育箱を洗浄した手指などにサルモネラが付着し、これが口に入ることにより感染します。特に子どもは無意識に手を口に持って行くことが多いので注意が必要です。

問5 どのような症状が出ますか？

答 サルモネラによる症状は多岐にわたりますが、通常見られるのは急性胃腸炎です。通常は8～48時間の潜伏期間を経て発症します。また、まれに、小児では意識障害、けいれん及び菌血症、高齢者では急性脱水症状及び菌血症により重症化します。

問6 治療方法は？

答 胃腸炎症状の場合、安易に下痢止めなどの市販薬を使用することは避け、医療機関を受診し、医師の指示に従ってください。また、医師に対して、ハ虫類に接触したこと又は飼育していることを教えてください。医療機関においては、特に症状が重い場合には抗菌薬（ニューキノロン系あるいは第3世代セファロスポリン系薬）による除菌がなされます。

3. ミドリガメなどのハ虫類の取扱い方法について

問7 ハ虫類を購入する際はどのようなことに注意したらよいですか？

答 ミドリガメをはじめとするハ虫類は、サルモネラに感染していても症状を示さないために外見上は感染の有無が分かりません。子供や高齢者、免疫機能が低下した方がいる家庭等では、ハ虫類を飼育するのは控えるべきです。購入する場合は、ハ虫類の多くはサルモネラを保有していることを念頭に、特に感染する危険性の高い方がいる家庭等では、飼育方法を十分検討してください。

なお、米国においては、サルモネラによる感染症を防止するため、1975年から4インチ（約10cm）以下のミドリガメを含むカメの販売は禁止されています。

問8 ミドリガメなどのハ虫類はどのくらい輸入されていますか？

答 ペットショップ等で販売されているミドリガメ等のハ虫類の多くは、海外から輸入されたものです。我が国では毎年30万頭程度のハ虫類が輸入されており、輸入されるカメの多くは米国産となっています。

カメなどハ虫類の輸入状況

(2010～2013)

カメ目	2010年			2011年			2012年			2013年(1-6月)		
	29カ国	数量	%	26カ国	数量	%	26カ国	数量	%	22カ国	数量	%
	344,358			282,865			217,725			98,417		
	上位5カ国			上位5カ国			上位5カ国			上位5カ国		
	米国	252,504	73.3	米国	181,071	64.0	米国	122,021	56.0	米国	43,608	44.3
	中国	68,598	19.9	中国	80,565	28.5	中国	72,655	33.4	中国	34,596	35.2
	ヨルダン	11,885	3.5	ヨルダン	8,506	3.0	ヨルダン	7,400	3.4	コロンビア	9,600	9.8
	ウズベキスタン	2,300	0.7	ザンビア	4,161	1.5	ベトナム	2,722	1.3	ヨルダン	2,251	2.3
	スロベニア	1,840	0.5	ウクライナ	1,540	0.5	ザンビア	2,180	1.0	ザンビア	1,506	1.5
その他のハ虫類		25,443			38,971			48,583			38,686	
合計		369,801			321,836			266,308			137,103	

※ 財務省貿易統計より(申告額20万円以上)

問9 飼育時の注意事項は？

答 カメなどのハ虫類の多くはサルモネラに感染しており、サルモネラを含む糞便を排泄していることから、飼育水などには多量のサルモネラが存在する可能性があります。これらは人のサルモネラ症の感染源となりますので、飼育水を交換する場合は、食品や食器を扱う流し台などを避け、排水により周囲が汚染されないよう注意することが必要です。また、飼育中のハ虫類を飼育槽から出して自由に徘徊させたり、台所等の食品を扱う場所に近づけたりしないように注意することも重要です。

問10 ハ虫類を触った後はどうしたらよいですか？

答 カメなどのハ虫類をはじめ、動物を触った後には必ず手指を石けんを用い十分に洗浄してください。

問11 飼育しているミドリガメからサルモネラを除菌することはできないのですか？

答 サルモネラに感染したカメに抗生物質を投与して除菌を試みた実験によると、一時的にサルモネラの排出が停止したかのように見えても完全にはカメの体内から除菌することができなかつたと報告されています。カメからサルモネラを除菌することはできないので動物の飼育環境を衛生的に保つことを心がけてください。

問12 病気が怖いので、飼育しているハ虫類を逃がしたいのですが？

答 生き物を飼い始めた場合、最後まで飼い続ける責任を持たなければなりません。どうしてもできない場合は、責任を持って、きちんと飼える人へ譲渡してください。場合によっては安楽殺処分しなければならないことも考慮すべきです。このような事態に陥らないためにも、動物を飼い始めるときはその動物の寿命、成長した時の大きさ、性格や生態、人に感染する病気の種類とその予防方法などを十分調べた上で判断してください。

なお、ハ虫類の中には外来生物法や動物愛護管理法によって、飼養することや放すことなどに対して規制がある特定外来生物や特定動物に該当するものがあります。これらを飼養する場合は、環境省や地方公共団体の許可を受ける必要があります。詳細は、環境省のホームページ (<http://www.env.go.jp/>) をご覧ください。

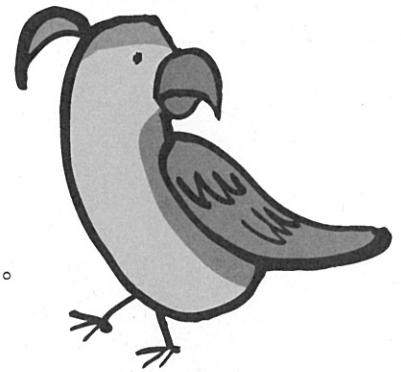
オウム病

● 病気の特徴(症状)

突然の発熱(38℃以上)で発症、咳が必ず出て、痰を伴う。全身けん怠感・食欲不振・筋肉痛・関節痛・頭痛等のインフルエンザのような症状。重症になると呼吸困難・意識障害等を起こし、診断が遅れると死亡する場合もある。

● 感染経路・感染状況

インコ、オウム、ハト等の糞に含まれる菌を吸い込んだり、口移しでエサを与えることによっても感染する。平成17年、国内の動物展示施設で従業員や来場者の間の集団感染があった。



● 予防

- 鳥を飼う時は、ケージ内に羽や糞が残らないよう常に清潔を心がける。
- 鳥の世話をした後は、手洗い、うがいをする。
- 病鳥から菌が大量に排せつされるので、鳥の健康管理に注意する。
- 口移しでエサを与えない等、節度ある接し方が大切。
- 鳥を飼っている人が治りにくい咳や息苦しさ等の症状を感じたらオウム病を疑って受診し、鳥を飼っていることを医師に伝える。鳥が元気のない時、死んだ時等に人が上記のような症状を感じたら速やかに受診する。
- 信頼のおけるペットショップで健康な鳥を購入する。

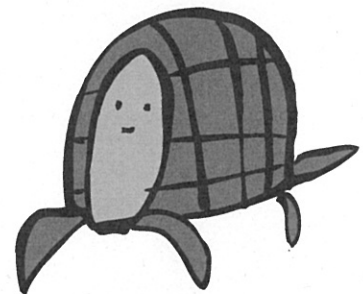
サルモネラ症

● 病気の特徴(症状)

感染した人の多くが胃腸炎症状を呈するが、無症状のこともある。まれに菌血症、敗血症、髄膜炎等の重症となり、ひどい場合には死亡することもある。

● 感染経路・感染状況

通常サルモネラ症は汚染された食品を介して感染するが、爬虫類等の動物との接触を通じて感染することもある。国内外の文献によると、カメ等の爬虫類の50~90%がサルモネラ菌を保有している。日本でも子供がペットのミドリガメから感染し、重症となった事例がある。



● 予防

- ペットの飼育環境を清潔に保ち、特に下痢をしている動物や爬虫類の世話をした後は石けん等を使って十分に手を洗う。
- 免疫機能の低い人(新生児や乳児、お年寄り等)がいる家庭での爬虫類の飼育は控える。
- カメなどの飼育水を交換する場合は、排水により周囲が汚染されないように注意する。